

関西医科大学 広報



淀川河川敷で開催された第一回くらわんか花火大会を背景に(右から本学の学舎、附属病院、関医タワー)

附属病院を彩る大輪の花

Vol.59

CONTENTS

トピックス：国際大学院開設

P.1

大学：オープンキャンパス

P.6

大学：ハノイ医科大学の医師が来学

P.5

大学：リハビリテーション学部 スチューデントトレーナーズクラブ発足

P.8

大学：子宮頸がん治療クラウドファンディングの実施

P.5

総合医療センター：
ロボット支援手術センター開設

P.12

国際大学院開設

医

- 本学が学費免除・奨学金支給・居住地を無償提供
- 医療系私立大学で唯一の『国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム』採択
- 日本語を学ぶカリキュラムも提供

本学は、大学院医学研究科医学専攻（博士課程）に令和4年度から国際大学院を開設しました。この国際大学院は、アジア・アフリカ・東欧各国などの協定大学から推薦された優秀な留学生を受け入れ、日本と関係国間の医学・医療に貢献できるリーダーを養成することを目的としています。また、留学生の受け入れに伴い、諸外国の標準である9月の秋入学を本学で初めて導入しました。

開設初年度は、7名が入学しました。本学から学費、生活費等、全面的な支援を受ける学生が4名、加えて、医療系の私立大学では昨年度唯一採択された文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の支援を受けた国費外国人留学生が3名となっています。私立大学による留学生への経済的な面も含めた全面的な支援は、国際化を進めるうえで非常に画期的な取り組みといえます。

本学医学研究科の理念は、「医学に関する基礎生命科学の基礎理論並びに先端医療への応用を学習・研究することにより、医学研究者として自立し国際的に研究活動を行うに必要な高度の研究能力と、指導的立場たるにふさわしい豊かな学識及び人間性を養う」ことにあります。国際大学院はこの対象者を世界に広げることを目指します。

留学生の皆さんには、各自の研究活動を行うだけでなく、地域社会・文化等の様々な活動にも積極的に参加して一層の知見を広められるよう、カリキュラムの中に日本語を学ぶ科目を取り入れています。この日本語科目は同じ枚方市にある関西外国語大学と提携し、1、2年次は必修科目として、3年次では選択科目として開講する予定です。4年の修業年限の間に日本での経験を深め、学位取得後は日本での学びを各自の医学・医療の発展につなげることが囑望されています。入学生の出身は、ベトナム、タイ、リトアニア、セネガルなど多様性に富んでおり、本学の国際化が一層進むことが期待されます。



留学生向け居住施設を55室完備した関医タワー

国際大学院学生の出身国別入学者数

	入学者数
タイ王国	1
ベトナム社会主義共和国	4
リトアニア共和国	1
セネガル共和国	1
合計	7



入学生と出席者の集合写真

また、10月4日（火）14時から、枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において国際大学院の入学式が挙行されました。

入学式には山下敏夫理事長をはじめ、友田幸一学長、木梨達雄副学長（研究担当）、大学院医学研究科人見浩史教務部長、大学院医学研究科中邨智之教務副部長、国際化推進センター西山利正副センター長や指導教員らが列席し、合計7名の入学を歓迎しました。



多様性に富んだ入学生の出身国



山下理事長の話に耳を傾ける入学生と出席者



退任のご挨拶

心臓血管外科学講座前診療教授 細野 光治



医

平成28年4月より心臓血管外科学講座診療教授として着任以来、約6年半お世話になりました。北河内医療圏の諸先生方にも大変お世話になり有り難うございました。令和4年9月より奈良県立医科大学胸部心臓血管外科学講座の主任教授に就任するため、8月末日をもって退任させて頂くこととなりました。

大阪市立大学出身であり、ほとんど面識のない方ばかりでございましたが、多くの方のご厚情とご助力を賜り心臓血管外科の診療・教育・研究を担当してまいりました。診療面では、関西医科大学総合医療センターで2年間、その後附属病院で約4年間主に心臓手術を担当させて頂き、低侵襲手術である心臓弁膜症の鏡視下手術を導入し、軌道に乗せること

ができました。研究面では、新たな弁形成手技の開発と心臓弁膜症の鏡視下手術の安全性の向上に関する研究を主に行い、臨床とあわせて進めることができました。教育面では、国内留学の専攻医に対して臨床のみならず研究でも指導を行い、原著論文を完成まで指導することができました。このように様々なことに積極的に取り組むことができましたのも、関西医科大学の自由な環境と、十分な設備や協力体制のおかげであったと感謝しております。今後も他学ではございますが、心臓血管外科学の発展、地域医療や社会への貢献、後進の育成に尽力していく所存です。最後になりましたが、関西医科大学の更なる発展を心から祈念しております。

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様のご協力をお願い申し上げます

募集要項	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和5年3月末日まで

税制上の優遇措置	
個人	所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます
法人	受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます

なお、この募金の応募は任意です。

令和4年12月31日までにご寄付をいただきますと、令和4年分の確定申告の対象となります。

募金のお手続き

申込書提出

募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。
 ・申込書はホームページに掲載しております
 ・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です

お振込み

募金専用口座へお振込み下さい。
 ・インターネットバンキングからお振込み
 ・振込用紙を使用し窓口にてお振込み ※本人確認が必要です
 ・ATMからお振込み ※上限額がございます

確定申告

確定申告いただくと所得税が減税されます。
 ・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします
 ・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります

ご希望がございましたら、募金室より申込書、申込書送付用封筒(切手不要)、振込用紙をお送りいたします。

令和4年7月から令和4年9月までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

遺贈・相続財産からのご寄付も承ります

【遺言信託業務協定先】

三菱UFJ信託銀行梅田支店(06-6366-0401)

三井住友信託銀行大阪本店法人業務部(06-6220-2515)

法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344

メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp

https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	9月29日	北河内メディカルネットワーク医療安全共同講習会	 <p>国際化推進センター留学生オンライン説明会</p>
	7月5日	看護学部進路ガイダンス	
	7月10日、8月7日、21日	看護学部リアルオープンキャンパス	
	7月10日、24日	リハビリテーション学部リアルオープンキャンパス	
	7月15日、16日	看護学部ホームカミングデー	
	7月16日、24日	医学部リアルオープンキャンパス	
	7月23日	第40回医学教育ワークショップ	
大学	8月5日	第1回大学院企画セミナー	 <p>附属病院消防訓練</p>
	8月18日	国際化推進センター留学生オンライン説明会	
	8月19日	ハノイ医科大学の医師が来学	
	8月20日	大学院医学研究科リトリート	
	9月10日	6大学合同研究医養成コースコンソーシアム研修会	
	9月13日	令和3年度「学生からの教育評価」に基づく教員の表彰式(医学部・医学研究科)	
	9月27日	令和4年9月度大学院医学研究科学位記授与式	
附属病院	7月1日	難病患者家族就労相談	 <p>総合医療センター地域連携WEBセミナー</p>
	7月26日	附属病院消防訓練	
	8月13日	第17回緩和ケア研修会	
	8月20日	地域連携Webセミナー	
総合医療センター	7月9日	第4回地域連携Webセミナー	
くずは病院	7月13日	社協こもれび一般講演	
卒後臨床研修センター	7月22日、8月12日	令和5年度研修医採用試験	
	8月12日、27日	令和5年度歯科研修医採用試験	
看護キャリア開発センター	7月30日	看護研究支援部門 第1回セミナー	

KMN医療安全共同講習会開催

本学が参加する地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク(KMN)の取組みとして、9月29日(木)15時から医療安全共同講習会がオンライン開催にて実施されました。附属病院医療安全管理部部長である宮崎浩彰理事長特命教授の進行のもと、今回は「医薬品(医療用麻薬・中枢性鎮痛剤など)に関する医療事故防止」をテーマに開催。最初に、薬剤部村中達也副部長が「医療用麻薬の取り扱いについて」、続いて医療安全管理部川瀬泰裕科長が「医薬品安全について～危険薬を中心に～」と題して講演しました。

医療現場での医療用麻薬の取り扱いや危険薬について解説したほか、実際に起こった事故の例などが幅広く取り上げられました。また、本学附属病院が事故防止のた

めに行っている対策や事故発生時の対応をまとめたマニュアルなどが参考として紹介されました。講習会には、KMN参加施設の院長、薬剤部長、看護部長をはじめとする多くの職員ら約60名が聴講し理解を深めました。



司会を務める宮崎理事長特命教授

第40回医学教育ワークショップ

医

7月23日(土) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂、2階学生セミナー室および会議室において「第40回医学教育ワークショップ」が開催され、教職員48名、学生8名の計56名が参加しました。今年のテーマは『医療プロフェッショナルリズム教育・評価を考える』とし、建学の精神である「慈仁心鏡」に基づく態度・人間性を備えた医人育成を目指した医学教育について討議しました。

グループ討議内容の発表や事後アンケートでは有意義な意見が多数挙げられ、今後の医学教育に活かされていく予定です。



ワークショップ参加者の集合写真

第1回大学院企画セミナー開講

医

8月5日(金) 18時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、京都大学iPS細胞研究所CiRA(サイラ)高橋淳所長・教授を講師に迎え大学院企画セミナーが開催され、教職員や大学院生ら59名が参加しました。

iPS・幹細胞応用医学講座六車恵子教授の司会の下、セミナーが開講。「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療」をテーマに、高橋教授が講演しました。講演では、iPS細胞から誘導したドパミン神経細胞を用いたパーキンソン病の治療法の詳細や、カニクイザルを用いた実験など非臨床試験の詳細、今後のヒトへの応用に向けた治験予定などの将来展望について、解説されました。

講演後の質疑応答でもたくさんの質問が寄せられ、セミナーは盛り上がりを見せました。



聴講者からの質問に答える高橋所長

6大学合同研究医養成コースコンソーシアム研修会

医

9月10日(土) 10時から枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂において、「研究医養成コースコンソーシアム研修会」が開催され、本学および連携5大学(奈良県立医科大学、兵庫医科大学、大阪医科薬科大学、神戸大学、藤田医科大学)の学生・教職員合わせて58名が参加しました。例年はホテルでの1泊2日の合宿形式ですが、コロナ禍により今年度は規模を縮小して、本学での1日研修会形式を取りました。直近2年間はオンライン開催を余儀なくされ、久々の対面開催であったため、他大学の学生との交流や自身の研究成果の発表などを通して、学生にとっては刺激的な1日になりました。



研修会参加者の集合写真

ハノイ医科大学の医師が来学

8月19日(金)、本学協定校であるハノイ医科大学(ベトナム社会主義共和国)から、3名の教員(医師)が本学に来訪しました。今回の訪問は、神戸大学大学院保健学研究保健学専攻種村留美教授の紹介により「JICA草の根技術協力事業」活動の一環として実現しました。到着した3名は友田幸一学長と面談し、ベトナムにおけるリハビリテーション医学や作業療法などについて情報交換。その後、一行は、医学部リハビリテーション医学講座長谷公隆教授による講義を聴講。本学での先端リハビリテーションの取り組みの解説に耳を傾けました。

その後は附属病院総合リハビリテーションセンターを訪問。歩行トレーニングロボットやAIによる3次元動作解析、Mixed Reality(複合現実)による認知リハビリテーション、随意収縮介助型電気刺激装置などを見学するとともに、本人が機器を装着して実際に体験していました。



MRを活用したリハビリテーションシステムを体験するハノイ医科大学の医師(左)

「子宮頸がんになる前の病変を切らずに治すために」 本学3件目のクラウドファンディング実施

産科学・婦人科学講座北正人診療教授は、子宮頸がん前がん状態の新治療法開発にむけ、本学3件目となるネット寄付による募金(クラウドファンディング)を実施しました。開始日の7月5日(火)には、10時30分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、クラウドファンディングの概要を発表する記者会見が行われました。会見では友田幸一学長、産科学・婦人科学講座岡田英孝主任教授の挨拶の後、北診療教授が、開発する治療の概要を説明し、寄付を募りました。クラウドファンディングは8月31日(水)に終了し、目標金額1,000万円に対してのべ457名の方々から1,230万円を超える寄付が

集まり、無事成立いたしました。

https://readyfor.jp/projects/kgan_pdt



記者会見の様子

北診療教授コメント：今回のクラウドファンディングは本学理事長・理事会のご承認のもと、本学職員・同窓会関係者の皆さまから大きなご支援を頂くことができました。深く感謝申し上げます。今回の資金を元に、現在、新治療法の医師主導臨床試験の準備を進めております。今後、皆さまに良いご報告ができるよう頑張ってお参りますので、引き続きご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

令和4年9月度大学院医学研究科学学位記授与式挙行

9月27日(火)15時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和4年9月大学院医学研究科学学位記授与式」が挙行されました。学位記授与式には友田幸一学長をはじめ木梨達雄副学長(研究担当)、大学院医学研究科人見浩史教務部長や指導教員らが列席し、課程博士9名、論文博士4名に博士(医学)の学位記が授与されました。

その後の学長式辞では、学位取得者の努力を労い、今後の活躍を期待しての激励の言葉が贈られました。また、修了生謝辞として、授与者代表からこれまでの大学院生活を振り返りながら、指導者や関係教職員のサポートに

対する感謝と医学博士号授与者としての決意が述べられました。



学位記を手に持つ修了生

令和4年度リアルオープンキャンパス開催

■ 医学部

7月16日(土)、枚方キャンパス医学部棟において、医学部リアルオープンキャンパスが開催され、高校生を始めとした受験生・保護者らが参加しました。

今年度のリアルオープンキャンパスも、参加人数の制限や実施プログラム一部縮小の他、検温やソーシャルディスタンスの確保、学内各所への消毒液の設置など新型コロナウイルス感染症感染予防策を徹底して行われました。

全体説明会場の加多乃講堂では、在学生の司会の下、カリキュラム説明、キャンパスライフ説明、入試概要説明等を行いました。また、同会場での在学生トークイベントでは、司会を務めた在学生在が受験勉強や学生生活について自身の体験を語りました。

その他、在学生2名がシミュレーションセンターなどの学内施設を紹介するキャンパス見学会や、受験相談、学生生活相談、学納金・奨学金相談といった各種個別相談会、学食体験なども行われました。



シミュレーションセンターで、内視鏡シミュレーターを見学

■ 看護学部

8月21日(日)、枚方キャンパス看護学部棟において看護学部リアルオープンキャンパスが開催されました。感染症対策のため完全予約制とし、午前・午後の2クールに分けて実施しました。

看護学部加藤令子学部長の挨拶と学部ガイダンスに続き、各種ガイダンス、学生トークショー、高機能シミュレーター実演などが行われました。学生トークショーでは授業・実習や学生生活、受験当時のことなど現役看護学部生のリアルな声が聴けるとあって参加者は熱心に聞き入っていました。高機能シミュレーター実演では聴診器をつけて心音の違いを体験するなど看護学部での学習がイメージできるブースとなっていました。

また、個別相談ブースでは、入試やカリキュラムなどについて教員に相談できる相談ブースや、在学生と個別に話ができる学生相談ブースが設置され、学生生活や入試対策などに関して相談する様子が見られました。



高機能シミュレーター実演の様子

■ リハビリテーション学部

6月19日(日)、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟においてリハビリテーション学部オープンキャンパスが開催されました。10時からの午前の部、13時からの午後の部あわせて128名の高校生や保護者が来学。

学部紹介ミニ講座や入試概要説明が行われた他、学科説明やそれぞれの学科の模擬体験のブースが開設されました。理学療法学科のブースでは、テーピングや動作解析、筋力・筋電図測定などを来場者が体験。作業療法学科のブースでは、こどもの作業療法に用いるブランコ、トランポリンや、革細工などに取り組む来場者の姿が見られました。

また学生企画として「私の大学生生活」も開かれ、本学リハビリテーション学部の行事や休み時間の過ごし方などを紹介する学生のトークに、来場者たちが聞き入っていました。



こどもの作業療法を体験する来場者とサポートする学生スタッフ(左)、教員

令和4年度
リアルオープンキャンパスは
右記日程で
開催しました。

医学部

7/16_土・7/24_日

看護学部

4/24_日・7/10_日・8/7_日・8/21_日

リハビリ
テーション学部

6/19_日・7/10_日・7/24_日

令和3年度「学生からの教育評価」

本学では、教員の教育活動を奨励しその資質の向上を図ることを目的として、学生による授業評価アンケートを実施しています。医学部、大学院医学研究科、リハビリテーション学部で、令和3年度の講義について学生に授業評価アンケートを集計した結果、次の講義が高い評価を得ました。

※看護学部の教育評価結果は次号以降に掲載予定です。

【受賞者受賞科目一覧】

●医学部 教育奨励賞

教養・基礎統合コース部門	臓器別系統別コース部門	臨床実習科目部門
1位 「生体の構造と機能P1」(1学年)	1位 「精神・行動」(4学年)	1位 「眼科学」
2位 「健康科学A1」(1学年)	2位 「血液・移植」(4学年)	2位 「小児科学」
3位 「LPBL A1」(1学年)	3位 「救急・中毒」(4学年)	3位 「腎泌尿器外科学」
教育努力賞		「医学英語 A2」

●大学院医学研究科

講義シリーズ部門(大学院総合講義)		
1位	「プレゼンテーションの仕方」	人見浩史 教授(iPS・幹細胞再生医学講座)
2位	「論文作成のための医学統計学講習会」	北脇知己 教授(数学教室)
3位	「研究倫理と科学的研究方法、データストレージ」	木梨達雄 教授(附属生命医学研究所分子遺伝学部門)
研究技術シリーズ部門		
1位	「細胞生物学実験II (顕微鏡・蛍光顕微鏡)」	松村伸治 准教授(病態分子イメージングセンター)
1位	「生化学実験I (タンパク質発現解析①②)」	松田達志 准教授(附属生命医学研究所生体情報部門)
3位	「細胞生物学実験III (FACS解析)」	松田達志 准教授(附属生命医学研究所生体情報部門)

●リハビリテーション学部

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
1位 「フランス語」	1位 「リハビリテーション概論」	1位 「基礎作業学」
2位 「社会学」	2位 「臨床心理学」	2位 「理学療法概論」
3位 「健康科学」	3位 「解剖学I」	3位 「作業療法概論」

また、医学部、医学研究科においては授業評価アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員もしくは科目を「関西医科大学教育奨励賞」として表彰しています。9月13日(火) 15時40分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において医学部、医学研究科の表彰者を対象に「令和3年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。この日の表彰式では、令和3年度表彰の対象となった講義の教員に友田幸一学長から表彰状が手渡されました。



表彰式の様子

大学院医学研究科リトリート

8月20日(土) 13時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂、正面玄関、オープンラウンジにおいて開催され、大学院医学研究科生と教員あわせて96名が参加しました。大学院医学研究科博士課程3・4学年による研究中間発表では、4つの選択必修コース(細胞の増殖と分化コース、体の高次機能コース、形態形成と老化コース、社会と健康コース)ごとに発表を行い、参加している大学院生および教員の投票結果から優秀者を1名ずつ選出し、最後に表彰しました。新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は規模を縮小しての開催となりましたが、研究中間発表者にとって自分の研究進捗や成果を発表し、フィードバックを受ける良い機会になりました。

【研究中間発表優秀者】

- ・細胞の増殖と分化コース 4学年 植木瑤子さん
- ・体の高次機能コース 4学年 亀井孝昌さん
- ・形態形成と老化コース 3学年 Myagmankhuu Saikhanchimegさん
- ・社会と健康コース 4学年 小宮慎之介さん



正面玄関でのポスター発表の様子

「卒前インターンシップ」実施

看

4月から8月にかけて、看護学部4年生が「卒前インターンシップ」として実習を行いました。この実習では、学生が進もうとする看護の場において、実際に就職した際のリアリテショクを最小限にし、自己の課題に向き合いながら社会人としての準備状況を整えます。学生たちは、これまで学んだ知識・技術を統合し、専門職業人として求められる実践力を養います。また、キャリア継続に向け必要な課題を明確にし、卒業後も主体的・継続的に学び続ける態度を身につけることを目的としています。

学生たちは、附属病院や総合医療センター、香里病院などの本学附属医療機関をはじめとしたそれぞれの希望

進路に沿った現場で実習に取り組み、就職後のイメージをふくらませていました。



除細動器を用いた演習風景

「進路ガイダンス」の開催

看

7月5日(火) 15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、看護学部3年生を対象とした「進路ガイダンス」が開催されました。

ガイダンスでは、看護学部加藤令子学部長の挨拶の後、「それぞれのキャリアに向けた心構え」と題してキャリア支援委員会太田祐子委員長が説明し、就職関連情報企業の担当者から就職活動におけるポイントに関する講演がありました。その後「関西医科大学附属医療機関の看護の魅力」と題して安田照美統括看護部長の講演、附属病院若手看護師から「関西医科大学附属医療機関に就職して」と題した講話、本学人事部から採用に関する説明、地域看護学領域森田理江講師から保健師として就職を希望する学生向けに採用に関する注意点やアドバイスがなされました。さらに、大学院進学を希望する学生向けには、大学院入試委員会大橋敦委員長から大学院の概要や入試に関する説明が行われました。

看護学部では、看護師、保健師、助産師としての豊富な実務経験および学生進路支援経験を持つ教員により組織されたキャリア支援委員会を中心に、学生のキャリア形成をサポートしています。

令和4年3月に本学看護学部を卒業した1期生は、看護師、保健師国家試験受験資格を全員が取れる本学ならではの強みを生かし、附属医療機関をはじめとするさまざまな医療機関・保健所等に採用されました。



加多乃講堂でのガイダンスの様子

「スチューデントトレーナーズクラブ」発足

リ

令和3年10月、リハビリテーション学部の学生を中心に、Student trainers Club「SeeK(シーク)」が発足しました。この団体は、将来スポーツ選手に関わりたいという目標を持つ学生たちを中心に立ち上がったもので、主な活動内容は、スポーツ傷害やテーピング技術の学習や、スポーツ現場に赴きトレーナーの手伝いなどを通じて現場の雰囲気を体験することなどです。

理学療法士は病院でスポーツ選手のリハビリをするだけでなく、現在ではプロスポーツの現場などで活躍する理学療法士が増えてきています。実際、東京オリンピックでは多くの理学療法士が活躍しました。そのような理学療法士になるためにも学生のうちからスポーツとの関

わりをいろいろと学べる場として「SeeK」があります。現在はコロナ禍であり、活動が制限されていますが、何ができるかを考え、今後も積極的に活動の場を拡大していく予定です。



スポーツ現場帯同の様子

若手研究者特集

さまざまな研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。
※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方に取材する連載企画です。

神経活動の解析で脳の情報処理メカニズムを明らかに

医学部 物理学教室 栗川 知己 助教

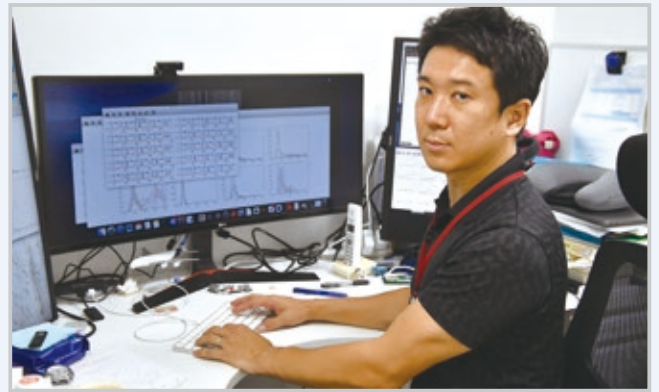
—現在のご研究テーマにとりくんだきっかけやその研究内容について教えてください。

現在は計算論的神経科学を専門に研究を行っていますが、高校までは宇宙物理学とか解析学に興味があって、それ関係の教科書、高木貞治の解析概論などを眺めていました。しかし、東大進学後に進路の振り分けで点数がたりず、理学部物理学科に進学できなかったことで、他にもテーマにも目がいくようになりました。結果、それまでも一般的な興味としてあった、脳の認知機能がどのように実装されているかを大学院で学んでみようという気分になって、同大学院の総合文化研究科にある金子邦彦研究室に進んだのです。ここは、元々複雑系の研究室なのですが、それをバックボーンに生物の発生・進化をやっている研究室です。ここでは脳も生物の一環として扱っている程度で専門ではなく、私自身も神経系だけでなく、生物の発生なども研究していました。ただ博士論文は、神経系のテーマを選び、理研BSI（現在はCBS center for brain science）を経て、関西医科大学に着任しました。

考えてみると、あまり今の研究テーマを選ぶしっくりしたきっかけのようなものはないですね。ただ、いつも色々な事に興味はあり、どのルートでも結局研究者にはなっていたと思います。私が取り組んでいることは、広い枠組みとしては計算論的神経科学になるのでしょうか。計算機シミュレーションで、脳の回路も模したものをいじったり、実際の神経活動のデータを解析したりしています。例えば連想記憶、これはある刺激が与えられた時にそれによっていろいろな事が想起される現象（マドレーヌを食べて、昔の思い出が蘇るような現象ですが）、はどういう神経回路の活動があれば成立するのか、ということをも神経回路のシミュレーションすることで調べています。また、上述の理研時代から、様々な実験をしている人とつながりが持てて、ありがたいことに共同研究も進める事ができています。そちらでは、ある認知課題を実行中の動物の神経細胞の活動データを解析することで、認知活動を実行する=神経系での情報処理を明らかにしようと試行錯誤しています。

—研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

研究の最終目標は、何で我々が普段何気なく行っている情報処理=色々なタスクを状況状況で柔軟に処理していく様相が可能になるのかを理解したいのですが、遙か遠い感じですね。ですので、その目



標に向かってどうやってアプローチ可能な小さい課題に分割できるのかを考えています。そして、学術的な観点からだけでは、課題を決めれないのが実情です。短期的には、物理学教室の助教として教育とどのように両立させるかという制約、育児を含めた家族の時間をとるための制約という時間的な制約（当たり前ですが、これらの制約はしたくない・必要ないというわけではありません、むしろ逆ですがそれでも研究という観点からみると制約になってしまいます）のもとで、ある程度の成果を細切れでも出していかないとはいけません。中長期的には、ある程度自分のキャリアの事も考えて、それに応じたもう少し大きな結果も出していく必要があります。このような現実的な制約の元で、どのように研究の方向性として最適解を出していくのか、日々悩んでいます。

私自身は医学部出身の医師ではないので、後輩にどれだけ該当するかはわかりませんが、研究職になりたい人に対するメッセージとして述べます。まず大前提として、この国で研究職をやるのはかなりの研究以外の負荷を伴います。もちろん諸外国でも研究環境・経済的状況は易しいものではないわけですが、研究外の（時として必要性を感じられない）作業が大変多いです。また正直、この国の将来は暗澹としているので、研究職を目指すのであれば、少なくとも大学院生くらいから何年かは海外でのキャリアを積んで、日本以外での研究継続も選択肢に入れることができるような状態にすべきです。ただ、未知を既知にするという研究は、このような困難を乗り越えてでもやる価値がある（というかそういう人以外はすべきではない）と考えています。

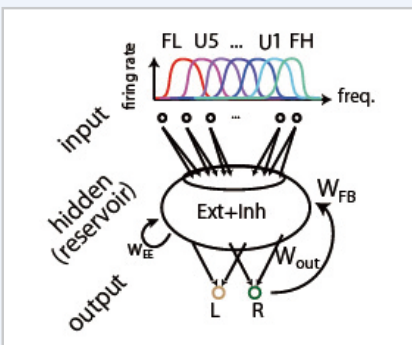


図1 リザーバネットワークを用いた聴覚刺激課題遂行時の神経回路のモデル概念図

略歴

- 2006年 3月 東京大学卒業
- 2009年 3月 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士前期課程修了
- 2011年 4月～ 日本学術振興会特別研究員
- 2012年 3月 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程修了
- 2016年 4月～ 国立研究開発法人理化学研究所
- 2018年 6月～ 関西医科大学 医学部助教

受賞歴

- 2009年 3月 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻奨励賞
- 2010年11月 ICONIP2010 Best Student Award
- 2013年 2月 公益財団法人井上化学振興財団 井上研究奨励賞
- 2016年10月 日本神経回路学会 論文賞

競争的資金採択歴 すべて研究代表者：栗川知己

1. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費 学習過程もたらす神経ダイナミクスの分岐構造と自発脳活動の生成
総額：130万円 研究期間2011-2012年度
2. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費 自発的脳活動がもつ機能の解明に向けた力学系のアプローチ
総額：432万円 研究期間：2013-2015年度
3. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 海馬-前頭前野間の動的な情報処理における脱抑制の役割の解明
総額：299万円 研究期間：2018-2019年度
4. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C） 神経発火パターンがつくる軌道構造による領野間通信機序の解明
総額：390万円 研究期間：2020-2022年度
(金額には間接経費を含みます)

精神的困難を抱える人に対するリカバリー志向実践を 明らかにし、より良い看護のために

看護学部 精神看護学領域 的場 圭 講師

—現在の研究テーマとそのテーマに決めたきっかけを教えてください。

精神障害や精神的困難を抱える人々に対して、リカバリー志向の援助が世界の主流となっています。ここでいうリカバリーとは、単に精神症状や障害をなくす「回復」だけを指すのではなく、症状や障害があったとしてもその人自身が人生に意味や意義を見出し自分らしく生活していくプロセスであり、結果であると捉えられています。この定義は特にパーソナルリカバリーと言われます。

私は元々精神科病院で看護師をしていました。入院中の医療では大なり小なり患者の行動や人権に制限を課すことで治療が進んでいきます。そこでは残念ながら当事者不在の支援が進められることが少なくありませんでした。そのような中でこれが「ベスト」な看護なのかという葛藤がありました。大学院へ進学した際に海外での実践や研究に触れ、リカバリー志向実践にこの葛藤を解決する答えがあるのではないかと思います研究テーマとすることになりました。

—その研究について教えてください。

現在、2つの研究を行っています。1つ目が、精神医療福祉の専門家のリカバリー志向実践を明らかにする研究です。国内外を問わず、リカバリーの考え方は広がっており、介入プログラムの有効性も示されています。一方で、プログラム外でのパーソナルリカバリーに基づく支援の重要性が示されていますが、これらの概念を実践に落とし込んでいくことへの困難さやどう実践に結び付けられるかが十分明らかになっていませんでした。私はリカバリーに詳しく実践でも活用している看護師や作業療法士、精神保健福祉士を対象にその実践を明らかにすることをやってきました。

2つ目が、リカバリー概念に基づいたプログラムであるWellness Recovery Action Plan（「元気回復行動プラン」、以下WRAP）の効果検証の研究です。WRAPはメンタルヘルスをより良い状態に維持するためのセルフヘルプツールです。精神障害者を対象にしたRCT（ランダム化比較実験）では、その有効性が示されており、その適応範囲が現在広がっています。私は抑うつリスクの高い看護職を対象にしたWRAPのRCTを実施予定ですが、本研究を通して、WRAPが看護職者自身でメンタルヘルスをより良い状態に維持し、自分らしく働けるためのツールになることを期待しています。

—研究の目標としていることや将来展望を教えてください。

精神障害や精神的困難を抱える人が、主体性を持って自分らしく生



活していけるための方法や看護実践を明らかにすることが目標です。現在、地域でのリカバリー志向実践を明らかにすることを行っています。強制的な治療や急性症状によって主体性が脅かされている状況にある入院の場での看護実践のあり方を明らかにすることが重要になってくると考えています。必要性があり治療として強制的な行為が行われている一方で、それらの行為は再トラウマ体験として影響することも明らかになりつつあります。治療や看護がより良いものになるにはどのような方法があるのかを模索し、その効果検証も行っていきたいと考えています。

また、WRAPが精神障害者だけでなく広く労働者一般のメンタルヘルスの維持に有用であることを示すことも目標です。WRAPが労働者の中でもどのような対象に、どのように介入にデザインするのがよいのか、またどのような効果があるのかを明らかにし、厚生労働省が推進している職場におけるメンタルヘルス対策の1つのツールとしていくことを目指しています。

—研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

看護の分野でも精神医療福祉におけるリカバリー研究は多くなされてきていますが、実際の日常看護の中でどのように組み込んでいけるのかはまだまだ分かっていません。また、そのような看護にどのような効果があるのかも十分に分かっていないとも言えません。それは看護という営みが複雑であることが一因であるとも思います。しかし、精神的困難を抱える人が自分らしく生きていくことを目指す援助は精神看護の基本です。看護の中にはこのような課題が多く残されていると思いますので自らの好奇心と関心に合わせつつどのような形であれ実践に寄与する研究をしてほしいと思います。

略 歴

- 2009年 3月 日本赤十字広島看護大学卒業
- 2009年 4月～ 公益財団法人浅香山病院
- 2014年 1月～ メディカルホームくらら真面小野原
- 2015年 3月 大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程修了
- 2016年 4月～ 学校法人大阪青山学園大阪青山大学助手
- 2018年 4月～ 関西医科大学助教
- 2022年 4月～ 関西医科大学講師

競争的資金探択歴

- 1. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援
リカバリー志向介入に参加しなくなった統合失調症者のリカバリー体験と支援の実態

- 総額：143万円 研究期間：2016-2017年度
研究代表者：的場圭
- 2. 厚生労働省 令和元年厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
看護職等が受ける暴力・ハラスメントに対する実態調査と対応策検討に向けた研究
総額：855.9万円 研究期間：2019年度
研究分担者：的場圭（研究代表者：三木明子）
- 3. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
訪問看護師・介護員における暴力への対応力向上のためのトレーニングプログラムの開発
総額：429万円 研究期間：2019-2022年度
研究分担者：的場圭（研究代表者：三木明子）

- 4. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
精神科病院の看護職員による入院患者への不適切ケア・虐待を防止するための指針の構築
総額：416万円 研究期間：2021-2023年度
研究代表者：的場圭
- 5. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
看護師のメンタルヘルスケアのためのWRAP有用性の検証
総額：377万円 研究期間：2021-2024年度
研究分担者：的場圭（研究代表者：矢山壮）
（金額には間接経費を含みます）

附属病院 NICUオンライン面会システム導入

7月から、附属病院新生児集中治療室(NICU)において、オンライン面会システム(OSAKA-Nシステム)を導入しました。このOSAKA-Nシステムは、大阪大学医学部附属病院総合周産期母子医療センターがクラウドファンディングによる支援で開発した面会システムです。半年間の無償貸与の募集に当院総合周産期母子医療センターが応募した結果採択され、導入が決定しました。

現在コロナ禍によって入院患者さんへの面会が制限されている中、特にNICUにおいては生まれたての赤ちゃんのご両親との愛着形成に大きく影響があるため、ご家族との面会が重要視されています。このオンライン面会システム導入によって赤ちゃんのご家族が手軽に面会できることは、ご家族が安心するためにも、感染予防の面

でも非常に意義があると考えられています。



NICUでのオンライン面会の様子

附属病院 看護部島村部長が日本看護協会会長賞を受賞

6月8日(水)幕張メッセ(千葉県千葉市美浜区)において開催された日本看護協会令和4年度通常総会において看護部島村里香部長が令和3年度日本看護協会会長賞を受賞しました。これは、公益社団法人日本看護協会の目的達成に著しい功績があった者に送られる賞です。

島村部長コメント

この度は名誉のある賞を頂き、大変光栄に思います。附属病院の代表として大阪府看護協会の役員および委員として協会活動に参加させて頂くにあたり、日頃からお力添え頂いております職員の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも、地域医療の中でリーダーシップを発揮するとともに、患者さんが安心して看護を受けられるよう院内の体制整備や、スタッフの育成に努めてまいります。



表彰状を手にする島村部長

附属病院 看護部大石副部長が大阪府看護協会会長表彰

6月17日(金)クレオ大阪中央ホール(大阪市天王寺区)において行われた大阪府看護協会令和4年度通常総会にて、看護部大石努副部長代理が第23回大阪府看護協会会長表彰を受けました。この賞は、長年にわたり看護業務に精励し府民の健康維持に貢献し、模範となる看護職者の功績を称えたものです。

大石副部長コメント

身に余る賞を頂き、これまでご指導、ご支援頂きました皆様にも感謝申し上げます。大阪府の保健医療福祉の向上に貢献する団体において、看護師教育等の一担を担わせて頂きました。コロナ禍で厳しい医療動向ではありますが、引き続き病院、地域医療、大阪府の保健医療福祉の発展に貢献できるよう努力してまいります。



表彰状を手にする大石副部長

総合医療センター

ロボット支援手術センター開設

7月1日(金)、総合医療センターにロボット支援手術センターが開設されました。外科系診療科が連携をはかり、低侵襲手術の普及と技術向上を目的として、ロボット支援手術に係るスタッフの教育及び臨床研究を推進します。手術支援ロボットは、モニターで拡大された体内の3次元内視鏡画像を観察し、詳細な情報を得ることができる上に、手の動きの正確な再現が可能であるため、これまで以上に安全かつ完成度の高い手術が提供できます。医師、看護師、臨床工学技士、事務職員が綿密に連携することで、患者さんの安全確保をめざします。

また、センター開設に伴い、総合医療センター初の手術支援ロボットとして「第4世代ダビンチXi」が導入されました。



ロボット支援手術センターの様子

総合医療センター

病院機能評価の更新認定

総合医療センターは、6月に第三者評価として公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価(3rdG: Ver.2.0)の更新審査を受審し、所定の認定基準を達成していると認められ、9月2日付で認定病院(一般病院2 3rdG: Ver.2.0)として更新されました。

- 認定番号：JC2188-2
- 認定期間：令和4年(2022年)7月7日～令和9年(2027年)7月6日
- 種別・審査体制区分等：一般病院2(3rdG:Ver.2.0)

病院機能評価とは、医療機関の機能を中立的な立場で評価を行う第三者機関として設立された公益財団法人日本医療機能評価機構が、病院の機能・安全管理体制・療養環境等について、中立的、科学的・専門的な見地から審査を行い、機構の定める認定基準に達しているかを評価するものです。

(評価対象領域)

- 1 領域「患者中心の医療の推進」
- 2 領域「良質な医療の実践1」
- 3 領域「良質な医療の実践2」
- 4 領域「理念達成に向けた組織運営」



香里病院

原口技師長が厚生労働大臣表彰受彰

香里病院放射線部原口隆志技師長が厚生労働大臣表彰を受けました。多年にわたり診療放射線業務に努め、市民の健康増進や医療放射線の啓発に尽力した功績が称えられ、公益社団法人京都府放射線技師会からの推薦により受彰が決定しました。

原口技師長には、7月16日(土)14時から経団連会館国際会議場(東京都千代田区)で行われた日本診療放射線技師会創立75周年記念式典にて、記念の表彰状と銀杯が授与されました。



表彰状を手にする原口技師長

くずは病院

枚方市地域包括支援センター社協こもれびで一般講演

7月13日(水) 13時30分から楠葉生涯市民学習センター(枚方市)大集会室において、くずは病院の管理栄養士である奥井潤主任が「糖尿病と食事の関係性について」の講演を行いました。

枚方市地域包括支援センター社協こもれびからの依頼で、社協こもれび職員・民生委員等40名に対して、奥井主任が糖尿病に関する基本的な考え方や、食事療法についてのポイント、注意点等をわかりやすく解説しました。参加者からは、高齢者支援における食事や間食の摂り方、おすすめ食品、食事と運動の関係について等の疑問点や質問が多くあげられ、盛況のうちに幕を閉じました。



講演する奥井主任



卒後臨床研修センター

令和5年度第1回・第2回研修医採用試験、研修歯科医採用試験

7月22日(金)および8月12日(金)に「令和5年度研修医採用試験」を、8月12日(金)および8月27日(土)に「令和5年度研修歯科医採用試験」を枚方キャンパス医学部棟にて実施しました。

令和5年度採用試験は感染対策を徹底したうえで、筆記試験と面接試験を実施。研修医採用試験では、53名の募集定員に対し過去最多の165名(本学出身者88名、他大学出身者77名)から応募があり、162名が受験しました。また、研修歯科医採用試験では、2名の募集定員に対し8名の応募があり、8名が受験しました。



採用試験の様子



看護キャリア開発センター

看護研究支援部門 第1回セミナー

7月30日(土) 14時30分から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室にて、第1回セミナー「看護師の研究力向上にむけて～管理者向け研究指導のすすめ～」をWebで開催しました。

令和3年4月に新設された看護キャリア開発センターでは、すべての看護職のキャリア支援や看護学部生のキャリア形成支援に取り組んでいます。これまで別部門や各病院で行っていた活動を集約して取り組んでおり、今回、同部門実施による初のセミナーが開催されました。

本セミナーでは看護師の臨床研究を指導する立場の看護部管理者を対象とし、附属4病院から48名が参加しました。

当該部門委員の看護部大石努副部長代理が司会を務め、部門長の看護学部李錦純教授および副部門長の香里病院看護部辻佐世里副部長による、研究指導の振り返り

と指導困難への対応に関する講演後、参加者によるグループワークを行いました。職位や所属別ではない混成のグループワークでは、研究指導上の課題とニーズが明らかになり、研究力向上の基盤形成に役立つ貴重な機会となりました。



講演する李教授



学会賞等受賞情報

令和4年7月～9月の学会賞受賞者等を紹介します。

State-of-the-Art Review 2022 award

外科学講座 里井 壯平 診療教授

- 受賞理由 掲載論文の中でも特にクオリティーの高い論文に対して、その功績を称えジャーナルへの貢献に対する謝意と敬意を表すことを目的とする。

論文“Surgical indication for and desirable outcomes of conversion surgery in patients with initially unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma”

- 授与学会 Annals of Gastroenterological Surgery (日本消化器外科学会英文機関紙)



最優秀演題賞

衛生・公衆衛生学講座 村上 由希 助教

- テーマ 卵巣摘出マウスにおける漢方薬の骨減少抑制効果
- 授与学会 第41回産婦人科漢方研究会学術集会



日本脊椎・脊髄手術手技学会最優秀論文賞

整形外科科学講座 石原 昌幸 助教

- テーマ Anterior column realignment における局所前弯獲得不良因子の検討
- 授与学会 第28回日本脊椎・脊髄手術手技学会



Article of the year 2021 Ranked 1st

外科学講座 里井 壯平 診療教授

- 論文 Timing of surgery following SARS-CoV-2 infection: an international prospective cohort study
- 雑誌名 Anaesthesia (Association of Anaesthetists 機関紙)

優良演題賞

香里病院放射線部 岩本 大成 放射線技師

- テーマ 小児の頭部単純X線検査における付加フィルタを用いた被ばく線量低減の試み
- 授与学会 第71回日本病院学会総会



日本小児泌尿器科学会優秀論文賞 基礎研究部門

小児科学講座 山内 壮作 講師

- テーマ Reduced urinary excretion of neutrophil gelatinase-associated lipocalin as a risk factor for recurrence of febrile urinary tract infection in children
- 授与学会 第31回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会



第32回(2022年度)研究助成

大学院看護学研究科博士後期課程生涯発達看護分野 角野 美希 大学院生

- テーマ 第1子出産後に抑うつを経験した母親の第2子妊娠期から育児期におけるコペアレンティングに着目した支援の構築
- 授与学会 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金



ICIS2022 トラベルアワード

附属生命医学研究所モデル動物部門

村山 正承 講師

- テーマ The CTRP3-AdipoR2 axis regulates the development of multiple sclerosis model mice by suppressing Th17 cell differentiation
- 授与学会 日本インターフェロン・サイトカイン学会



第32回(2022年度)研究助成

大学院看護学研究科博士後期課程生涯発達看護分野 竹中 加奈枝 大学院生

- テーマ 腹圧性尿失禁を有する妊婦のヘルスリテラシー発展に着目した骨盤底筋トレーニングの有効性の評価
- 授与学会 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金



関西医科大学広報vol.58(令和4年4月29日発行)、P15掲載「メディア掲載情報」記載内容に誤りがありました。

医学部 精神神経科学講座 加藤正樹准教授:

(誤)日経バイオテク ONLINE (5月18日)、Medical Tribune (5月20日)→(正)日経バイオテク ONLINE (5月18日)

医学部 形成外科学講座 覚道奈津子教授

(誤)NHK NEWS WEB (5月24日)→(正)Medical Tribune (5月20日)

医学部 救急医学講座 中森靖診療教授

(誤)NHK「かんさい熱視線」4月22日→(正)NHK「かんさい熱視線」4月22日、NHK NEWS WEB 5月24日

お詫びして訂正申し上げます。



教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。
(主に令和4年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	「安心」8月号 (7月1日)	衛生・公衆衛生学講座西山利正教授がフレイルの予防法に関する記事で、運動と、たんぱく質が豊富な食事習慣の両方が重要であることを解説した内容が掲載されました。
産科学・婦人科学講座 北 正人 診療教授	NHK「ニュースほっと関西」 「ニュース845」 (7月5日)	北診療教授らが開発に取り組む、子宮頸がん前癌状態を治療する患者さんへの負担が少ない新たな治療法の実現のため、その研究に必要な資金を募るクラウドファンディングを開始したことが、本学の記者会見の様子と北診療教授のコメントともに放送されました。
産科学・婦人科学講座 北 正人 診療教授	テレビ大阪「やさしいニュース」 (7月5日)	北診療教授らが開発に取り組む子宮頸がん前癌状態を治療する新たな治療法の概要が紹介され、この研究に必要な資金を募るクラウドファンディングを本学が開始したことが、本学の記者会見の様子と北診療教授のコメントともに放送されました。
呼吸器腫瘍内科学講座 倉田 宝保 教授	NHK「おはよう関西」 (7月6日)	倉田教授が、自らも作成に携わったがん検診の大切さを訴える絵本を大阪府北河内地区の小学校に配布したことに関連して「子供たちに小さい時から知識を得てもらい、親や祖父母にがん検診の重要性を伝えてもらうことにより、がんで亡くなるような患者を一人でも減らしたい」とのコメントが放映されました。
産科学・婦人科学講座 北 正人 診療教授	オンコロ (7月8日)	北診療教授らが開発に取り組む子宮頸がん前癌状態を治療する新たな治療法について、その詳細や開発中の医療器具が紹介され、またこの研究に必要な資金を募るクラウドファンディングを本学が開始したことが掲載されました。
産科学・婦人科学講座 北 正人 診療教授	枚方フー生 (7月12日)	北診療教授らが取り組む、子宮頸がん前癌状態の新たな治療法開発のため、必要な資金を募るクラウドファンディングを実施していることが掲載されました。
関医タワーホテル	枚方フー生 (7月12日)	関医タワーホテルの受付や客室の概要、窓からの眺めや利用料金などが紹介されました。
呼吸器腫瘍内科学講座 倉田 宝保 教授	枚方フー生 (7月12日)	倉田教授が会長を務める北河内がん診療ネットワーク協議会ががん教育・がんの啓発活動を目的とした絵本「笑顔のチケット」を発刊したことが紹介されました。
産科学・婦人科学講座 北 正人 診療教授	医療新聞DIGITAL (7月12日)	北診療教授らが取り組む、子宮頸がん前癌状態の新たな治療法開発のため、必要な資金を募るクラウドファンディングを実施していることが、治療法の詳細とあわせて紹介されました。
リハビリテーション学部作業療法学科 三木 恵美 准教授	朝日新聞朝刊 東京本社版 (7月14日)	三木准教授が取り組んだ、マフを使用することで認知症高齢者の心身のストレスが軽減されることを明らかにした調査結果が、三木准教授のコメントとあわせて掲載されました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	毎日新聞 (7月17日)	小林所長がインタビューに応じ、日本に光免疫医学の研究所を開設した理由、本学の研究所の体制、今後の適用拡大や光免疫療法に関する研究の広がりについて解説した内容が掲載されました。
産科学・婦人科学講座 北 正人 診療教授	産経新聞WEB (7月18日)	北診療教授らが、子宮頸がん前癌状態の新たな治療法開発のため必要な資金を募るクラウドファンディングを実施していることが、同診療教授のコメントとあわせて紹介されました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	読売新聞朝刊 (7月28日)	西山教授が、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う高齢者を対象とした行動制限を取り上げた記事で、期待できる効果などについてコメントしました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	「ライフライン21がんの先進医療」 (7月30日)	小林所長が取材を受け、巻頭の「がん治療最前線」において、光免疫療法の新しく、本学に令和4年4月光免疫医学研究所が設置されたこと、適応拡大なども含めた今後の展望などが詳しく紹介されました。
眼科学講座 山田 晴彦 准教授	毎日新聞 (7月30日)	山田准教授(大阪府眼科医会学術担当理事)が司会を務めた「第15回目の健康講座」でのパネルディスカッションについて、近視・遠視・老眼など関する事前に寄せられた質問への回答内容が掲載されました。
産科学・婦人科学講座 北 正人 診療教授	月刊AGORA (8月1日)	北診療教授らが取り組む、子宮頸がん前癌状態の新たな治療法開発のため、必要な資金を募るクラウドファンディングを実施していることが、同診療教授のコメントとあわせて掲載されました。
関西医科大学	ReseMom (8月1日)	本学医学部が令和5年度入学生から6年間の学費を総額2100万円に大幅減額することが取り上げられ、初年度の学費が290万円になることや特待生制度、奨学金制度の充実などと合わせ紹介されました。
放射線科講座 中村 聡明 准教授	ラジオNIKKEI「医学講座」 (8月9日)	がんの放射線治療について、治療の仕組みや流れ、放射線が生物に影響を与える理由などに加え、最近の放射線治療の進歩について保険適用されているものを中心に解説されました。
総合医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科(耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座) 朝子 幹也 准教授	毎日新聞 (8月10日)	朝子准教授が「今日のセカンドオピニオン」の中で、副鼻腔炎が治らないという相談に対し、要因を見極めるためCT検査で詳しく調べることを勧めるコメントが紹介されました。
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長 附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 藤澤 琢郎 講師	医師専門サイト「MedPeer」チャンネル内「MEDICAL NEWS LINE」 (8月24日)	光免疫療法に関して取材を受け、小林所長がこの療法を開発した契機や副作用がないという特徴を、藤澤医師が切除をせずにすむ同療法のメリットを解説した内容が放送されました。
外科学講座 吉田 明史 病院助教 海堀 昌樹 診療教授	QLifePro (8月31日)	吉田病院助教と海堀診療教授らが、国立研究開発法人物質・材料研究機構(茨城県つくば市)との共同研究で、抗がん剤内包PCL(ポリカプロラクトン)ファイバースシートを用いた新規局所治療デバイスの開発を行った論文が紹介され、内容が掲載されました。
精神神経科学講座 嶽北 佳輝 准教授	週刊医学界新聞 第3484号 (9月5日)	嶽北准教授が電気けいれん療法(ECT)について寄稿し、うつ病や統合失調症などの精神疾患治療でのECTの有効性、適切な導入についての見解を述べました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	読売新聞朝刊 (9月6日)	新型コロナウイルス感染症の自主検査について扱った記事で、西山教授が自主検査を効果的な取り組みと評す一方、重症者を見落とさないよう注意すべきと指摘したコメントが掲載されました。
医化学講座 寿野 良二 講師	日経バイオテック (9月14日)	寿野講師らの研究チームが、京都大学医生物理研究所や大阪大学蛋白質研究所のグループと共同で、クライオ電子顕微鏡単粒子解析によってGタンパク質(G)結合状態の活性化型プロスタグランジン受容体EP3の立体構造を決定したとの研究成果が取り上げられました。
関西医科大学	毎日新聞朝刊 (9月24日)	附属病院敷地内に今年関医タワーを開設したことが掲載されました。
皮膚科学講座 谷崎 英昭 教授	Rebrand yourself (9月26日)	谷崎教授が附属病院乾癬センターについて取材を受け、複数診療科が連携し乾癬の多角的・包括的な感染治療を提供できるというメリットや、地域の開業医との連携にも力を入れているといった取り組みについて解説しました。

《新型コロナウイルス感染症関連》

医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 7月15日・19日・29日、8月2日・17日・22日・29日、 9月6日・12日	医学部 救急医学講座 中森 靖 診療教授	NHK「ニュースほっと関西」 「ニュース関西845」 7月28日
医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 7月6日・20日・28日、8月5日・31日、9月7日	医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	「す・またん！」 8月31日

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

暑い季節がいつの間にかすぎで、すっかり秋の空になりました。いつもスポーツの秋を楽もう、と思いながら、結局食欲の秋を満喫してしまいます。11月にはくずは駅中健康・健診センターが開設ということで、健康に対する人々の意識が高まっているのを感じます。私も我が子と一緒にランニングを始めるのを今秋の目標に、寒さが厳しくなる前のこの秋の季節を楽しみたいと思います。(も)

関西医科大学広報 Vol.59

発行 学校法人 関西医科大学
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2638

https://www.kmu.ac.jp/
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和4年10月28日(金)発行